順天堂大学医学部附属静岡病院
小児科専門研修プログラム

順天堂大学医学部附属静岡病院小児科専門研修プログラム

目 次

1. 順天堂大学医学部附属静岡病院 小児科専門研修プログラムの概要
2. 小児科専門研修はどのように行われるのか
3. 専攻医の到達目標
   - 3-1. 習得すべき知識・技能・態度など
   - 3-2. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
   - 3-3. 学問的姿勢
   - 3-4. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性
4. 施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方
   - 4-1. 年次毎の研修計画
   - 4-2. 研修施設群と研修モデル（静岡病院版に編集）
5. 専門研修の評価
6. 修了判定
7. 専門研修管理委員会
   - 7-1. 委員会の業務内容
   - 7-2. 専攻医の就業環境
   - 7-3. プログラムの継続的改善
   - 7-4. 専攻医の採用と修了
   - 7-5. 研修中断、プログラム変更等の条件
   - 7-6. サイトビジットへの対応
8. 専門研修実績記録システムと研修手帳、マニュアル
9. 指導医体制
10. サブスペシャリティー領域との連続性と支援

1. 順天堂大学医学部附属静岡病院 小児科専門研修プログラムの概要

～基幹施設:順天堂大学医学部附属静岡病院～

【病院の概要】

「順天堂」の歴史は、天保 9 年(1838 年)、初代堂主・佐藤泰然が江戸・薬研堀に蘭学塾を開いたことに始まります。順天堂は、医育機関を併設した西洋医学の医療機関として、日本で最も長い歴史と伝統を持つ医療機関のひとつです。

当院は、旧伊豆長岡町の町立病院を 1967 年に学校法人順天堂が引き継ぐかたちで発足しました。最初は 94 床の小規模病院として出発しましたが、1981 年には救命救急センターを、翌 1982 年には未熟児医療を専門とする新生児センターを開設し、1998 年にはほぼすべての診療科を有する総合病院へと発展しました。現在では 633 床を擁し、静岡県東部最大規模の高度急性期病院として地域医療を支えています。

設立当初より、伊豆半島全域を含む広域の診療圏を担い、地域の急性期医療を担うと同時に、大学病院としての高度先進医療を提供しています。周囲の中核病院からの紹介患者も多く、医療水準の維持と地域貢献を両立させる体制を構築しています。

小児科領域では、小児救急、急性疾患、慢性疾患のフォローアップに加え、地域の特性として新生児医療、小児集中治療、アレルギー疾患、発達支援などのニーズが多く、そのほか多領域にわたる診療機能を拡充してまいりました。特に周産期医療においては、2008 年に総合周産期母子医療センターに指定され、新生児集中治療管理室(NICU)および母体胎児集中治療管理室(MFICU)を完備し、妊娠期から新生児期に至るまでの一貫した医療提供体制を確立しています。また、日本周産期・新生児医学会認定研修施設として、新生児専門医の育成にも積極的に取り組んでおり、専攻医に対して新生児領域での豊富な経験を提供しています。

他にも、静岡県より「アレルギー疾患医療拠点病院」として、地域のアレルギー医療の中核施設として診療・教育・啓発活動を展開しています。小児科も日本アレルギー学会専門研修施設の認定を受けており、アレルギー専門医を志す専攻医にとっても充実した研修環境が整っています。

本研修プログラムでは、大学附属病院としての先進的医療と地域密着型医療の両立を体験できるほか、学会発表・臨床研究への参加も積極的に奨励しており、アカデミックな志向を持つ専攻医にとっても発展的なキャリア形成が可能です。

【研修プログラムの目標】

小児科医は、成長・発達の過程にある子どもの診療を担う「子どもの総合医」です。診療の対象となる子どもは新生児から思春期までと広範囲にわたり、この間に心身は著しい変化を遂げます。年齢や発達段階に応じて病態が異なり、診察法や治療方針も変化するため、小児科医には高い柔軟性と包

括的視点が求められます。また、疾患の治療のみならず、健常児の成長・発達の理解と支援、保護者への指導を含めたトータルケアが重要な任務です。本プログラムでは、日本小児科学会が掲げる「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医の育成」を理念とし、地域密着型の大学附属病院である当院の特色を活かして、バランスの取れた研修機会を提供します。

順天堂大学静岡病院は、伊豆地域を含む静岡県東部の急性期中核病院として、NICU を含む総合周産期母子医療センターを有し、新生児医療から慢性疾患管理、救急、小児神経、アレルギーなど幅広い領域をカバーしています。特に静岡県アレルギー疾患拠点病院としての機能も有し、アレルギー診療・啓発活動にも注力しています。また、県内外からの紹介症例も多く、幅広い症例を経験できる環境が整っており、初期対応から専門的加療まで一貫した診療能力を身につけることが可能です。

本プログラムでは、以下の目標を掲げ、3 年間で小児科医としての土台を築くことを目指します。

1. 幅広い疾患を経験し、複数の専門領域の指導医からの教育を受け、確かな臨床力を養う。
2. 小児救急への的確な初期対応力や集中治療管理を身につけ、地域の急性期医療に貢献できるスキルを習得する。
3. 総合周産期センターにおける新生児医療（早産、低出生体重児管理、呼吸管理、母体胎児連携）の実践経験を積む。
4. 以下の臨床手技を多く修得する：
    - 新生児への超音波検査
    - 新生児への気管挿管
    - 新生児・小児に対する中心静脈カテーテルの挿入
    - 小児の集中治療における呼吸循環管理
    - 脳波計測の実施、評価
5. 学会発表・論文作成を数多く経験し、臨床研究の基礎を学び、専門医試験に 1 回で合格する。
6. サブスペシャルティ領域の基礎を学び、関心に応じて連携施設での研修機会も活用する。
7. 希望があれば大学院進学を含む学術的キャリア形成や、指導者としての教育的視点を養う。

専攻医には「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の 5 つの資質を備えた、小児医療を地域と社会で担う専門医となることを期待しています。

【本プログラムの概略】

本プログラムは、基幹施設である順天堂大学医学部附属静岡病院を中心に、順天堂大学医学部附属順天堂医院および静岡県内の連携施設で構成される研修プログラムです。専攻医は、3 年間の研修期間を通じて各施設をローテーションし、一次医療から三次医療に至る幅広い小児診療を経験することができます。

〔研修 1 年次〕

基幹施設である順天堂大学医学部附属静岡病院において、9 か月間の研修を行います。当院では、小児救急、集中治療管理、新生児医療、慢性疾患、小児アレルギー、発達診療など多領域にわたる診療に取り組んでいます。Common diseases から小児集中治療、NICU 管理、新生児蘇生や急性疾患の初期対応まで、小児科医として必要な幅広い臨床経験を積むことができます。また、定期的に開催される「新生児蘇生法（NCPR）講習会（専門コース）」への参加も奨励しており、初年度から実践的な技術の習得を目指します。

〔研修 1～2 年次〕

静岡県立こども病院および順天堂大学医学部附属順天堂医院において研修を行います。静岡県立こども病院では、専門性の高い疾患や集中治療を含む小児専門病院における医療体制を学びます。一方、順天堂大学医学部附属順天堂医院では、当院では経験しにくい症例に加え、充実した教育環境のもとで血液腫瘍疾患を含む希少疾患や高度専門医療を経験し、1 年次に得た知識を活かしてさらに専門性を深めます。加えて、学会発表や症例報告、抄読会への参加を通じて、臨床研究の基礎的素養も身につけていきます。

〔研修 2～3 年次〕

連携施設である地域の一般病院において、小児の common diseases を中心に診療経験を重ねるとともに、乳幼児健診・予防接種・小児保健など、地域小児医療の実践や多職種との医療連携について学びます。さらに、当院に併設されている静岡災害医学研究センターの施設・人材を活用し、臨床研究や基礎研究に従事する機会も提供しています。リサーチマインドを育みながら、学会発表や論文執筆に取り組むことを奨励しています。最終年度には、専門医試験に向けた準備（症例要約、筆記試験対策、口頭試問の練習など）も含め、教育的支援のもとで円滑な修了を目指します。

【研修プログラムの特徴】

1） 小児の一次診療から救急・周産期医療まで幅広く経験できます

順天堂大学医学部附属静岡病院は、静岡県東部および伊豆地域全体を診療圏とする三次医療機関です。近隣に小児救急機能を有する医療機関が少ないことから、多くの小児患者が来院し、一次診療から急性期医療まで幅広い診療を担っています。当院は、地域の急性期小児医療を担うと同時に、大学病院として高度医療も提供しており、急性疾患、慢性疾患、発達支援、先天性疾患など、多領域にわたる小児医療機能を拡充してまいりました。とくに救急医療の分野では、ドクターヘリを運用し、広域から重症患者を受け入れる体制を整えています。そのため、小児科医として集中治療の経験を積むことが可能です。さらに、総合周産期母子医療センターとして NICU および MFICU を有し、ハイリスク妊娠から分娩、新生児管理まで一貫して対応できる体制を備えています。また、新生児救急車を活用し、広域にわたる重症新生児の搬送および搬入後の集中治療にも従事できる体制を整えています。小児・新生児医療における地域の中核病院として、重要な役割を果たしています。

2） 学術的キャリアを支える充実した指導・教育体制

小児科の各サブスペシャリティ分野において、経験豊富でアカデミックな指導医を配置しており、順天堂大学医学部附属順天堂医院との連携による教育・研究体制も整備されています。学会発表や論文執筆を積極的に推進しており、学術的なキャリア形成を支援体制を整えています。

3） 周産期から新生児領域まで多くの症例実践経験が可能

当院は、NICU（新生児集中治療室）および MFICU（母体・胎児集中治療室）を有する総合周産期母子医療センターとして、24 時間体制でハイリスク妊娠・分娩ならびに新生児管理に対応しています。専攻医は、超早産児や超低出生体重児を含むハイリスク分娩への立ち会い、新生児蘇生、急性期の全身管理、さらには外科手術前後の周術期管理にも実践的に関与します。これにより、出生直後からの重症児対応を含む幅広い診療経験を積むことができ、小児科専門医としての総合力を涵養できる環境が整っています。

4） 小児科専門医取得を目指した指導体制を整備しています

各分野の病態を横断的に理解し、急性期から慢性期までの管理や救急症例の実践を通じて、3年間の研修修了後の小児科専門医取得を目指します。必須症例の経験、学会発表、論文作成など、専門医取得に向けた支援体制を整備しています。

5） 専門医取得後はさまざまなキャリアパスを実現できます

サブスペシャルティを極めたい方、大学院で基礎研究に取り組みたい方、さらには留学や地域医療を視野に入れたキャリア開発も可能です。静岡病院には女性医師も多く在籍しており、院内保育所や病児保育施設も併設しています。育児と両立しながら医療に従事できるよう支援する体制が整っています。

2. 小児科専門研修はどのように行われるのか

順天堂大学医学部附属静岡病院における 3 年間の小児科専門研修では、日本小児科学会が定めた「小児科医の到達目標」に準拠し、レベル A の臨床能力の獲得を目指します。専攻医は日々の研修において「小児科専門研修手帳」を活用し、自己評価と指導医からのフィードバックを通じて、自らの成長を振り返りながら学びを積み重ねていきます。

1）臨床現場での学習

静岡病院では、外来診療、入院管理、健診業務、専門外来、救急対応、さらに NICU・GCU・MFICU を含む周産期医療など、地域の中核病院としての多様な診療現場で経験を積むことができます。特に、NICU に併設された新生児搬送チーム（通称：新生児救急車）では、地域内外の重症新生児搬送に同行することで、周産期救急における実践的なスキルを習得することができます。また、ドクターヘリを活用した広域医療搬送に関与する機会もあり、より高度な初期対応能力を磨くことが可能です。専攻医は、経験した症例について指導医から継続的なフィードバックを受けながら、以下の取り組みを通じて臨床能力を体系的に高めていきます。

- 診療録の記載および症例要約の作成
- 研修手帳への記録（ふりかえりとフィードバック）
- 臨床カンファレンス、抄読会（ジャーナルクラブ）、CPC、症例検討会での発表

【重点的に取り組むべき事項】

- 「小児科専門医の役割」に関する学習：小児科学会が定めた 6 つの役割を 3 年間で習得し、手帳に記録してください。
- 「経験すべき症候」に関する学習：全 33 症候のうち 8 割以上（27 症候以上）を経験し、記録してください。
- 「経験すべき疾患」に関する学習：全 109 疾患のうち 8 割以上（88 疾患以上）を経験し、記録してください。
- 「習得すべき診療技能と手技」に関する学習：全 54 技能のうち 8 割以上（44 技能以上）を経験し、記録してください。
- 静岡病院では、経験豊富な指導医のもと、幅広い臨床能力の獲得に加えて、災害医学研究センター等と連携した臨床研究の推進にも注力しており、実臨床からの疑問をアカデミックに昇華する力を身につけることも重要な研修目標としています。

＜順天堂大学静岡病院群小児科専門研修プログラムの年間スケジュール＞

月	1年次	2年次	3年次	修了者	
4	○				研修開始ガイダンス（研修医および指導医に各種資料を配布）
		○	○		研修手帳を研修管理委員会に提出し、チェックを受ける
				○	研修手帳・症例レポート等を研修管理委員会に提出し判定を受ける
					＜研修管理委員会＞ ・研修修了予定者の修了判定を行う ・2年次、3年次専攻医の研修の進捗状況の把握 ・次年度の研修プログラム、採用計画などの策定
	○	○	○	○	＜日本小児科学会学術集会＞
5				○	専門医認定審査書類を準備する
	○	○	○	○	＜研修プログラム合同勉強会・歓迎会・修了式＞
6				○	専門医認定審査書類を専門医機構へ提出
	○	○	○	○	＜日本小児科学会地方会＞
8	○	○	○		＜研修プログラム合同勉強会＞
					＜小児科専門医取得のためのインテンシブコース＞
9				○	小児科専門医試験
	○	○	○		臨床能力評価（Mini-CEX）を1回受ける
	○	○	○		研修手帳の記載、指導医とのふりかえり
					専門医更新、指導医認定・更新書類の提出
10					＜研修管理委員会＞ ・研修の進捗状況の確認 ・次年度採用予定者の書類審査、面接、筆記試験 ・次年度採用者の決定
11	○	○	○	○	＜日本小児科学会地方会＞
12	○	○	○		＜研修プログラム合同勉強会・納会＞
3	○	○	○		臨床能力評価（Mini-CEX）を1回受ける
	○	○	○		360度評価を1回受ける
	○	○	○		研修手帳の記載、指導医とのふりかえり、研修プログラム評価
					専門医更新、指導医認定・更新書類の提出

＜当研修プログラムの週間スケジュール（順天堂大学医学部附属静岡病院）＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr>
<tr><td>8:00－9:00</td><td colspan="6">担 当 患 者 情 報 の 把 握</td></tr>
<tr><td>8:30－10:00</td><td colspan="6">朝 カ ン フ ァ レ ン ス ・ 病 棟 回 診</td></tr>
<tr><td>10:00－12:00</td><td colspan="3">病棟業務</td><td>外来業務</td><td colspan="2">病棟業務</td></tr>
<tr><td>12:00－13:00</td><td colspan="5">昼 休 憩</td><td rowspan="6">週末当直
（月1回）</td></tr>
<tr><td>13:00－15:00</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td></tr>
<tr><td>15:00－16:30</td><td colspan="5">患 者 申 し 送 り ・ 病 棟 回 診</td></tr>
<tr><td>16:30－17:30</td><td>周産期合同
カンファレンス
（月1回）</td><td>退院症例
カンファレンス
（月1回）</td><td>入院症例
カンファレンス
（週1回）</td><td></td><td>伊豆小児
臨床研究会
（年3回）</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">平日当直（月3回）</td></tr>
</table>

2） 臨床現場を離れた学習

当院では、臨床現場での研修に加えて、専門医としての総合的な能力を高めるため、以下のような学習機会の活用を推奨しています。

（1） 学会・研究会・講習会への積極的参加

日本小児科学会学術集会、地方会、小児科学会分科会（日本小児アレルギー学会、日本小児　神経学会など）、ならびに関連研究会・セミナーへの積極的な参加を推奨します。当院は「日本アレルギー学会専門研修施設」「静岡県アレルギー疾患拠点病院」として、地域開催の学会・研究会にも強く関与しており、これらの場は実践的な知識の深化や、地域医療連携の理解に資するものです。

（2）「小児科専門医取得のためのインテンシブコース」（1 泊 2 日）

日本小児科学会主催の集中講義セミナーで、12 領域の重要項目を体系的に学ぶことができます。

（3） 学会での症例発表・研究発表

日本小児科学会総会、静岡県地方会、科会などでの発表を通じて疾患や病態の理解を深めます。

（4） 日本小児科学会オンラインセミナーの活用
　医療安全、感染対策、倫理、各専門分野のトピックを学びます。

（5） 日本小児科学会雑誌の定期購読と投稿活動
　学会誌の継続的な購読を通じて、最新の小児科学的知見に触れることを推奨しています。

（6） 論文執筆と研究活動
　小児科専門医の取得にあたっては、査読付き学術雑誌への論文投稿が必須となっており、当院では早期から体系的な論文指導を行っています。特に、静岡災害医学研究センターなどとの連携を活用し、臨床研究および疫学研究の専門家が研究計画立案から論文化まで一貫して支援します。

3） 自己学習

　到達目標および研修手帳に記載されている小児疾患、病態、手技等の各項目について自己評価を行い、不足している分野や疾患については積極的に自己学習を進めてください。医局内の図書や医学雑誌を利用できるほか、順天堂大学静岡病院附属図書館および順天堂大学医学部附属図書館にもインターネットを通じてアクセス可能であり、24 時間いつでも文献検索を行うことができます。

4） 大学院進学

　大学院への進学は必須ではありませんが、専門研修期間中の進学も推奨しています。進学を希望する場合は、研修と並行して大学院の講義や研究に参加できるよう、あらかじめプログラム研修施設について相談を行います。臨床に従事しながら臨床研究を進める場合、その期間は専門研修として取り扱われます。これまでも学位取得を目指す専攻医が多数在籍しており、病院群として大学院生を指導・支援する体制を整えています。

3. 専攻医の到達目標

3-1. 習得すべき知識・技能・態度など

1）「小児科専門医の役割」に関する到達目標

日本小児科学会が定めた小児科専門医としての役割を３年間で身につけるようにしてください（研修手帳に記録してください）。

役割		1年目	2年目	修了時
子どもの総合診療医	子どもの総合診療 ● 子どもの身体，心理，発育に関し、時間的・空間的に全体像を把握できる. ● 子どもの疾病を生物学的,心理社会的背景を含めて診察できる. ● EBM と Narrative-based Medicine を考慮した診療ができる.			
	成育医療 ● 小児期だけにとどまらず，思春期・成人期も見据えた医療を実践できる. ● 次世代まで見据えた医療を実践できる.			
	小児救急医療 ● 小児救急患者の重症度・緊急度を判断し， 適切な対応ができる ● 小児救急の現場における保護者の不安に配慮ができる.			
	地域医療と社会資源の活用 ● 地域の一次から二次までの小児医療を担う. ● 小児医療の法律・制度・社会資源に精通し，適切な地域医療を提供できる. ● 小児保健の地域計画に参加し，小児科に関わる専門職育成に関与できる.			
	患者・家族との信頼関係 ● 多様な考えや背景を持つ小児患者と家族に対して信頼関係構築できる. ● 家族全体の心理社会的因子に配慮し，支援できる.			
育児・健康支援者	プライマリ・ケアと育児支援 ● Common diseases など，日常よくある子どもの健康問題に対応できる. ● 家族の不安を把握し，適切な育児支援ができる.			
	健康支援と予防医療 ● 乳幼児・学童・思春期を通して健康支援・予防医療を実践できる.			
子どもの代弁者	アドヴォカシー（advocacy） ● 子どもに関する社会的な問題を認識できる. ● 子どもや家族の代弁者として問題解決にあたることができる.			
学識・研究者	高次医療と病態研究 ● 最新の医学情報を常に収集し,現状の医療を検証できる. ● 高次医療を経験し，病態・診断・治療法の研究に積極的に参画する.			
	国際的視野 ● 国際的な視野を持って小児医療に関わることができる. ● 国際的な情報発信・国際貢献に積極的に関わる.			
医療のプロフェッショナル	医の倫理 ● 子どもを一つの人格として捉え、年齢・発達段階に合わせた説明・告知と同意を得ることができる. ● 患者のプライバシーに配慮し、小児科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる.			
	省察と研鑽 ● 他者からの評価を謙虚に受け止め，生涯自己省察と自己研鑽に努める.			

	教育への貢献 ● 小児医療に関わるロールモデルとなり，後進の教育に貢献できる. ● 社会に対して小児医療に関する啓発的・教育的取り組みができる.			
	協働医療 ● 小児医療にかかわる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる.			
	医療安全 ● 小児医療における安全管理・感染管理の適切なマネジメントができる.			
	医療経済 ● 医療経済・保険制度・社会資源を考慮しつつ，適切な医療を実践できる.			

2)「経験すべき症候」に関する到達目標 日本小児科学会が定めた経験すべき33症候のうち8割以上（27症候以上）を経験するようにして下さい（研修手帳に記録してください）。

症候	1年次	2年次	修了時
体温の異常			
発熱、不明熱、低体温			
疼痛			
頭痛			
胸痛			
腹痛（急性、反復性）			
背・腰痛、四肢痛、関節痛			
全身的症候			
泣き止まない、睡眠の異常			
発熱しやすい、かぜをひきやすい			
だるい、疲れやすい			
めまい、たちくらみ、顔色不良、気持ちが悪い			
ぐったりしている、脱水			
食欲がない、食が細い			
浮腫、黄疸			
成長の異常			
やせ、体重増加不良			
肥満、低身長、性成熟異常			
外表奇形・形態異常			
顔貌の異常、唇・口腔の発生異常、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、股関節の異常			
皮膚、爪の異常			
皮膚、爪の異常			
発疹、湿疹、皮膚のびらん、蕁麻疹、浮腫、母斑、膿瘍、皮下の腫瘤、乳腺の異常、爪の異常、発毛の異常、紫斑			

皮膚、爪の異常			
発疹、湿疹、皮膚のびらん、蕁麻疹、浮腫、母斑、膿瘍、皮下の腫瘤、乳腺の異常、爪の異常、発毛の異常、紫斑			
頭頸部の異常			
大頭、小頭、大泉門の異常			
頸部の腫脹、耳介周囲の腫脹、リンパ節腫大、耳痛、結膜充血			
消化器症状			
嘔吐(吐血)、下痢、下血、血便、便秘、口内のただれ、裂肛			
腹部膨満、肝腫大、腹部腫瘤			
呼吸器症状			
咳、嗄声、喀痰、喘鳴、呼吸困難、陥没呼吸、呼吸不整、多呼吸			
鼻閉、鼻汁、咽頭痛、扁桃肥大、いびき			
循環器症状			
心雑音、脈拍の異常、チアノーゼ、血圧の異常			
血液の異常			
貧血、鼻出血、出血傾向、脾腫			
泌尿生殖器の異常			
排尿痛、頻尿、乏尿、失禁、多飲、多尿、血尿、陰嚢腫大、外性器の異常			
神経・筋症状			
けいれん、意識障害			
歩行異常、不随意運動、麻痺、筋力が弱い、体が柔らかい、 floppy infant			
発達の問題			
発達の遅れ、落ち着きがない、言葉が遅い、構音障害(吃音)、学習困難			
行動の問題			
夜尿、遺糞			
泣き入りひきつけ、夜泣き、夜驚、指しゃぶり、自慰、チック			
うつ、不登校、虐待、家庭の危機			
事故、傷害			
溺水、管腔異物、誤飲、誤嚥、熱傷、虫刺			
臨死、死			
臨死、死			

3)「経験すべき疾患」に関する到達目標 日本小児科学会が定めた経験すべき109疾患のうち、8割以上（88疾患以上）を経験するようにして下さい（研修手帳に記録してください）。

新生児疾患，先天異常	感染症	循環器疾患	精神・行動・心身医学
低出生体重児	麻疹，風疹	先天性心疾患	心身症，心身医学的問題
新生児黄疸	単純ヘルペス感染症	川崎病の冠動脈障害	夜尿
呼吸窮迫症候群	水痘・帯状疱疹	房室ブロック	心因性頻尿
新生児仮死	伝染性単核球症	頻拍発作	発達遅滞，言語発達遅滞
新生児の感染症	突発性発疹	血液，腫瘍	自閉症スペクトラム
マス・スクリーニング	伝染性紅斑	鉄欠乏性貧血	AD/HD
先天異常，染色体異常症	手足口病、ヘルパンギーナ	血小板減少	救急
先天代謝，代謝性疾患	インフルエンザ	白血病，リンパ腫	けいれん発作
先天代謝異常症	アデノウイルス感染症	小児がん	喘息発作
代謝性疾患	溶連菌感染症	腎・泌尿器	ショック
内分泌	感染性胃腸炎	急性糸球体腎炎	急性心不全
低身長，成長障害	血便を呈する細菌性腸炎	ネフローゼ症候群	脱水症
単純性肥満，症候性肥満	尿路感染症	慢性腎炎	急性腹症
性早熟症，思春期早発症	皮膚感染症	尿細管機能異常症	急性腎不全
糖尿病	マイコプラズマ感染症	尿路奇形	虐待，ネグレクト
生体防御，免疫	クラミジア感染症	生殖器	乳児突然死症候群
免疫不全症	百日咳	亀頭包皮炎	来院時心肺停止
免疫異常症	RSウイルス感染症	外陰膣炎	溺水，外傷，熱傷
膠原病，リウマチ性疾患	肺炎	陰嚢水腫，精索水腫	異物誤飲・誤嚥，中毒
若年性特発性関節炎	急性中耳炎	停留精巣	思春期
SLE	髄膜炎（化膿性，無菌性）	包茎	過敏性腸症候群
川崎病	敗血症，菌血症	神経・筋疾患	起立性調節障害
血管性紫斑病	真菌感染症	熱性けいれん	性感染，性感染症
多型滲出性紅斑症候群	呼吸器	てんかん	月経の異常
アレルギー疾患	クループ症候群	顔面神経麻痺	関連領域
気管支喘息	細気管支炎	脳炎，脳症	虫垂炎
アレルギー性鼻炎・結膜炎	気道異物	脳性麻痺	鼠径ヘルニア
アトピー性皮膚炎	消化器	高次脳機能障害	肘内障
蕁麻疹，血管性浮腫	腸重積	筋ジストロフィー	先天性股関節脱臼
食物アレルギー	反復性腹痛		母斑，血管腫
アナフィラキシー	肝機能障害		扁桃，アデノイド肥大
			鼻出血

4. 「習得すべき診療技能と手技」に関する到達目標日本小児科学会が定めた経験すべき54技能のうち、8割以上（44技能以上）を経験するようにして下さい（研修手帳に記録して下さい）。

身体計測		採 尿	けいれん重積の処置と治療
皮脂厚測定		導 尿	末梢血液検査
バイタルサイン		腰椎穿刺	尿一般検査、生化学検査、蓄尿
小奇形・形態異常の評価		骨髄穿刺	便一般検査
前弯試験		浣 腸	髄液一般検査
透光試験（陰嚢、脳室）		高圧浣腸（腸重積整復術）	細菌培養検査、塗抹染色
眼底検査		エアゾール吸入	血液ガス分析
鼓膜検査		酸素吸入	血糖・ビリルビン簡易測定
鼻腔検査		臍肉芽の処置	心電図検査（手技）
注射法	静脈内注射	鼠径ヘルニアの還納	X線単純撮影
	筋肉内注射	小外科、膿瘍の外科処置	消化管造影
	皮下注射	肘内障の整復	静脈性尿路腎 盂造影
	皮内注射	輸血	CT検査
採血法	毛細管採血	胃 洗 浄	腹部超音波検査
	静脈血採血	経管栄養法	排泄性膀胱尿道造影
	動脈血採血	簡易静脈圧測定	腹部超音波検査
静脈路確保	新生児	光線療法	
	乳児	心肺蘇生	
	幼児	消毒・滅菌法	

3-2. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

本プログラムではさまざまな知識・技能の習得機会（教育的行事）を日本小児科学会の到達目標に準拠して設けています。以下の機会のほかにも学習の機会があるため、自己研鑽を積んでください。当院では、日々の診療に加えて、専攻医が実践的な知識と技術を身につけるための多様なカンファレンスや教育活動を行っています。

① 朝カンファレンス・病棟回診（平日毎日）

当直帯の新入院患者や急変対応について、当直医より全体申し送りを行い、病棟での朝回診を実施します。専攻医は症例のプレゼンテーションを行うとともに、担当症例に関して指導医からフィードバックを受け、その場での問いや指摘をきっかけに自己学習を深めていきます。

② 夕回診・患者申し送り（平日毎日）

夕方の病棟回診では、日中の経過を確認し、翌日の対応を見越して議論します。プレゼンテーションを通じて、自らの理解を整理し、当直担当者への的確な申し送りを経験します。

③　外来診療（週 1 回）

近隣医療機関からの紹介に対応し、急性期疾患の診断・初期対応を学びます。あわせて、慢性疾患が必要な安定している患児についても、担当医として継続診療を経験します。外来では、限られた時間内で適切に問診・診察・説明を行う力を養います。あわせて、家族との信頼関係の構築や、経過観察に基づく医療判断を学びます。

④　入院症例カンファレンス（週 1 回）

新入院症例について、鑑別診断、治療方針を含めた検討を行います。指導医だけでなく、参加する医師からの議論を通じて、思考の広がりと臨床判断力を深めます。

⑤　退院症例カンファレンス（月1回）

情報共有が必要とされる代表的な退院症例を取り上げ、診療チーム全体で治療経過を振り返ります。治療方針の妥当性、診断過程の課題、家族支援の在り方などを多角的に検討し、学術的な整理と今後の診療改善に活かす実践的な学びの場としています。

⑥　周産期合同カンファレンス（月 1 回）

産科・新生児科・小児科・小児外科・看護部など多職種合同で、出生予定の高リスク症例や出生後に治療介入が必要な症例について検討を行います。また、重症新生児の転帰についても検討・共有し、チーム医療の実践を学びます。

⑦　伊豆小児臨床研究会（年3回）

年数回開催される勉強会であり、小児科専攻医が習得すべき基礎的・最新の知識を深めるため、学内外から専門家を招聘し、臨床・研究・地域医療など多様なテーマで講演を行います。専攻医は聴講に加え、司会・発表・討論にも積極的に関与し、専門性とプレゼンテーション能力、コミュニケーション力を磨く機会としています。

⑧　英文抄読会（毎月 1 回）

指導医が臨床・研究に関連する英語論文を選定し、専攻医が抄録・背景・方法・結果・考察を整理してプレゼンテーションを行います。指導医や医局員との質疑応答を通じて、英語文献の正確な読解力とエビデンスに基づいた批判的思考を養います。論文選定から発表準備、討論までを主体的に担うことで、アカデミックなスキルを体系的に身につけます。

⑨　学会・地方会予演会（随時）

小児科学会静岡地方会（年 2 回）や全国学会、分科会等での症例報告・研究発表に向けて、学内予演会を実施します。専攻医は発表内容を本番さながらにプレゼンテーションし、指導医や医局員からのフィードバックを受けて内容をブラッシュアップします。

⑩　医学生・初期研修医への教育指導（通年）

当院では順天堂大学医学部生の小児科研修における学生指導も行なっており、専攻医は実習中のミニレクチャーを通じて教育的役割を担います。また、当院初期研修医に対しても指導を行い、こうした教育活動を通じて、専攻医自身も知識の整理と再確認を行います。

3-3. 学問的姿勢

本プログラムでは、日々の診療経験を通じて「科学的思考」「生涯学習の姿勢」「研究への関心」を育むことを重視しています。専攻医は、臨床に加えて学術活動にも積極的に関わることで、未来の小児医療を牽引する医師としての基盤を培います。

① 担当症例に対し、常に最新の医学的知見をもとに診断・治療を考察できるようになること
② 疾患に関する基礎医学や社会的背景について学び続け、診療に反映する姿勢を身につけること
③ 高度医療や希少疾患の症例を通じて、病態解明や治療法確立に貢献する臨床研究の重要性を理解すること
④ 国際的視点から小児医療を見つめ、世界への情報発信に関心を持つこと
⑤ 指導医からのフィードバックを謙虚に受け止め、内省と継続学習に努める姿勢を持つこと

なお、小児科専門医資格取得のためには、査読付き雑誌への筆頭著者としての論文投稿が求められています。論文作成には相応の準備期間を要するため、研修 2 年次の早期より指導医の助言のもと、適切なテーマ設定と執筆計画を開始することが推奨されます。静岡病院では、多様な臨床症例と学術論文作成に際し、上級医のメンター制度を整備し、専攻医の学術的成長を後押しする環境を整えています。

3-4. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性

コア・コンピテンシーとは医師としての中核的な能力あるいは姿勢のことで、第3項の「小児科専門医の役割」に関する到達目標が、これに該当します。特に「医療のプロフェッショナル」は小児科専門医としての倫理性や社会性に焦点を当てています。

① 子どもを一個の人格として捉え、年齢・発達段階に合わせた説明・告知と同意を得ることができる。
② 患者のプライバシーに配慮し、小児科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる。
③ 小児医療に関わるロールモデルとなり、後進の教育に貢献できる。
④ 社会に対して小児医療に関する啓発的・教育的取り組みができる。
⑤ 小児医療に関わる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる。
⑥ 小児医療の現場における安全管理・ 感染管理に対して適切なマネジメントができる。
⑦ 医療経済・社会保険制度・社会的資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できる。

4. 施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方

4-1. 年次毎の研修計画

日本小児科学会では研修年次毎の達成度（マイルストーン）を定めています（下表）。小児科専門研修においては広範な領域をローテーションしながら研修するため、研修途中においてはマイルストーンの達成度は専攻医ごとに異なっていて構いませんが、研修修了時点で一定レベルに達していることが望まれます。「小児科専門医の役割（16項目）」の各項目に関するマイルストーンについては研修マニュアルを参照してください。研修3年次はチーフレジデントとして専攻医全体のとりまとめ、後輩の指導、研修プログラムへの積極的関与など、責任者としての役割が期待されます。

1年次	健康な子どもと家族、common diseases、小児保健・医療制度の理解 基本的診療技能（面接、診察、手技），健康診査法の修得 小児科総合医、育児・健康支援者としての役割を自覚する
2年次	病児と家族、重症疾患・救急疾患の理解 診療技能に習熟し、重症疾患・救急疾患に的確に対応できる 小児科総合医としての実践力を高める、後輩の指導
3年次 （チーフレジデント）	高度先進医療、希少難病、障がい児に関する理解 高度先進医療、希少難病、障がい児に関する技能の修得 子どもの代弁者、学識・研究者、プロフェッショナルとしての実践 専攻医とりまとめ、後輩指導、研修プログラムへの積極的関与

4-2. 研修施設群と研修モデル

小児科専門研修プログラムは3年間（36 か月間）と定められています。本プログラムにおける研修施設群と、年次毎の研修モデルは下表のとおりです。地域医療研修は、下記の連携施設および関連施設において経験するようプログラムされています。

＜本プログラムに研修施設（1基幹施設、6連携施設）＞

	施設名	医療圏	小児科 年間入院数	小児科 年間外来数	小児科 専門医数	うち 指導医数
基幹施設	順天堂大学医学部附属 静岡病院	駿東田方	15,402	17,562	9	4
1	順天堂大学医学部附属 順天堂医院	東京都 区中央部	18,493	28,534	32	21
2	静岡県立こども病院	静岡	68,088	99,197	65	25
3	沼津市立病院	駿東田方	4,102	8,559	4	2
4	聖隷沼津病院	駿東田方	615	14,045	6	1
5	富士宮市立病院	富士	448	12,830	1	0
6	静岡市立清水病院	静岡	766	8,881	2	1

＜本プログラム研修ローテーション＞

<table>
<tr><th></th><th colspan="3">1年目</th><th colspan="3">2年目</th><th colspan="2">3年目</th><th rowspan="3">専門医試験</th></tr>
<tr><td>専攻医A</td><td colspan="2">A</td><td>B</td><td>C</td><td colspan="2">D</td><td>E</td></tr>
<tr><td>専攻医B</td><td colspan="2">A</td><td>C</td><td>B</td><td colspan="2">F</td><td>G</td><td>A</td></tr>
</table>

A：順天堂大学静岡病院
B：順天堂大学順天堂医院
C：静岡県立こども病院
D：沼津市立病院
E：聖隷沼津病院
F：静岡市立清水病院
G：富士宮市立病院

	研修期間施設 （責任施設）	専門研修 連携施設①	専門研修 連携施設②	連携施設 *関連施設
研修施設	順天堂大学 静岡病院	順天堂大学 順天堂医院	静岡県立こども病院	沼津市立病院 聖隷沼津病院 *富士宮市立病院 静岡市立清水病院
研修期間	9か月	3か月	6か月	18か月
施設での研修内容	地域中核病院として新生児から思春期まで幅広い小児診療を経験できる。一般外来診療、病棟管理、救急対応を中心に、地域医療機関からの紹介患者の診療を通じて病診連携を学び、急性期から慢性疾患まで総合的な小児診療能力の向上を目指す研修を行う。	小児血液・腫瘍、循環器、神経、免疫など高度専門領域の診療を経験できる。希少疾患や難治例、専門的検査・治療に触れ、静岡病院では経験しにくい高度専門医療への理解を深め、小児科医としての専門性と臨床判断力の向上を目指す研修を行う。	小児専門病院としての高度医療環境のもと、救急・集中治療、専門外来、希少疾患診療などを体系的に経験できる。多職種連携によるチーム医療を学び、重症例や専門性の高い症例を通じて臨床判断力と総合的な小児診療能力の向上を目指す研修を行う。	一般小児外来、入院診療、救急対応を中心に、地域に密着した実践的な小児医療を経験できる。急性疾患の初期対応やcommon diseasesの診療、周産期施設や診療所との連携を通じて、地域完結型医療に必要な臨床判断力と対応力を養う研修を行う。

＜本プログラムの領域ベルの研修目標＞

研修領域	研修目標	基幹研修施設	研修連携施設 ＊研修関連施設
診療技能全般	小児の患者に適切に対応し，特に生命にかかわる疾患や治療可能な疾患を見逃さないために小児に見られる各症候を理解し情報収集と身体診察を通じて病態を推測するとともに，疾患の出現頻度と重症度に応じて的確に診断し，患者・家族の心理過程や苦痛，生活への影響に配慮する能力を身につける。 1. 平易な言葉で患者や家族とコミュニケーションをとる。 2. 症候をめぐる患者と家族の解釈モデルと期待を把握し，適切に対応する。 3. 目と耳と手とを駆使し，診察用具を適切に使用して，基本的な診察を行う。 4. 対診・紹介を通して，医療者間の人間関係を確立する。 5. 地域の医療資源を活用する。 6. 診療録に利用価値の高い診療情報を記載する。 7. 対症療法を適切に実施する。 8. 臨床検査の基本を理解し，適切に選択・実施する。	順天堂大学 静岡病院	順天堂大学順天堂医院 静岡県立こども病院 沼津市立病院 聖隷沼津病院 ＊富士宮市立病院 静岡市立清水病院
小児保健	子どもが家庭や地域社会の一員として心身の健康を維持・向上させるために，成長発達に影響を与える文化・経済・社会的要因の解明に努め，不都合な環境条件から子どもを保護し，疾病・傷害・中毒の発生を未然に防ぎ，医療・社会福祉資源を活用しつつ子どもや家族を支援する能力を身につける。	同上	同上
成長・発達	子どもの成長・発達に異常をきたす疾患を適切に診断・治療するために，身体・各臓器の成長，精神運動発達，成長と発達に影響する因子を理解し，成長と発達を正しく評価し，患者と家族の心理社会的背景に配慮して指導する能力を身につける。	同上	同上
栄養	小児の栄養改善のために，栄養所要量や栄養生理を熟知し，母乳育児や食育を推進し，家庭や地域，環境に配慮し，適切な栄養指導を行う能力を身につける。	同上	同上
水・電解質	小児の体液生理、電解質、酸塩基平衡の特殊性を理解し、脱水や水・電解質異常の的確な診断と治療を行う能力を身につける。入院患者を担当しながら、全身管理の一環として水・電解質管理を学ぶ。	同上	同上
新生児	新生児の生理，新生児期特有の疾患と病態を理解し，母子早期接触や母乳栄養を推進し，母子の愛着形成を支援するとともに，母体情報，妊娠・分娩経過，系統的な身体診察，注意深い観察に基づいて病態を推測し，侵襲度に配慮して検査や治療を行う能力を修得する。	同上	同上
先天異常	主な先天異常，染色体異常，奇形症候群，遺伝子異常のスクリーニングや診断を一般診療の中で行うために，それら疾患についての知識を有し，スクリーニング，遺伝医学的診断法，遺伝カウンセリングの基本的知識と技能を身につける。	同上	同上
先天代謝異常・代謝性疾患	主な先天代謝異常症の診断と治療を行うために，先天代謝異常症の概念と基本的な分類を理解し，新生児マス・スクリーニング陽性者には適切に対応し，一般診療の中で種々の症状・所見から先天代謝異常症を疑い，緊急を要する病態には迅速に対応し，適切なタイミングで専門医へ紹介する技能を身につける。	同上	同上

内分泌	内分泌疾患に対して適切な初期対応と長期管理を行うために，各種ホルモンの一般的概念，内分泌疾患の病態生理を理解し，スクリーニング検査や鑑別診断，緊急度に応じた治療を行うことのできる基本的能力を身につける。	同上	同上
生体防御免疫	一般診療の中で免疫異常症を疑い，適切な診断と治療ができるために，各年齢における免疫能の特徴を理解し，免疫不全状態における感染症の診断，日常生活・学校生活へのアドバイスと配慮ができ，専門医に紹介できる能力を身につける。	同上	同上
膠原病リウマチ性疾患	主な膠原病・リウマチ性疾患について小児の診断基準に基づいた診断，標準的治療とその効果判定を行うために，系統的な身体診察，検査の選択，結果の解釈を身につけるとともに，小児リウマチの専門家との連携，整形外科・皮膚科・眼科・リハビリテーション科など多専門職とのチーム医療を行う能力を身につける。	同上	同上
アレルギー	アレルギー反応の一連の仕組み，非即時型アレルギーの病態，IgE 抗体を介した即時型アレルギーについて，アトピー素因を含めた病歴聴取，症状の推移の重要性を理解し，十分な臨床経験を積んで，検査・診断・治療法を修得する。	同上	同上
感染症	主な小児期の感染症について，疫学，病原体の特徴，感染機構，病態，診断・治療法，予防法を理解し，病原体の同定，感染経路の追究，感染症サーベイランスを行うとともに，薬剤耐性菌の発生や院内感染予防を認識し，患者・家族および地域に対して適切な指導ができる能力を修得する。	同上	同上
呼吸器	小児の呼吸器疾患を適切に診断・治療するため，成長・発達にともなう呼吸器官の解剖学的特性や生理的変化，小児の身体所見の特徴を理解し，それらに基づいた診療を行い，急性呼吸不全患者には迅速な初期対応を，慢性呼吸不全患者には心理社会的側面にも配慮した対応能力を身につける。	同上	同上
消化器	小児の主な消化器疾患の病態と症候を理解し，病歴聴取・診察・検査により適切な診断・治療・予防を行い，必要に応じて外科等の専門家と連携し，緊急を要する消化器疾患 に迅速に対応する能力を身につける。	同上	同上
循環器	主な小児の心血管系異常について，適切な病歴聴取と身体診察を行い，基本的な心電図・超音波検査結果を評価し，初期診断と重症度を把握し，必要に応じて専門家と連携　し，救急疾患については迅速な治療対応を行う能力を身につける。	同上	同上
血液	造血系の発生・発達，止血機構，血球と凝固因子・線溶系異常の発生機序，病態を理解し，小児の血液疾患の鑑別診断を行い，頻度の高い疾患については正しい治療を行う能力を修得する。		同上
腫瘍	小児の悪性腫瘍の一般的特性，頻度の高い良性腫瘍を知り，初期診断法と治療の原則を理解するとともに，集学的治療の重要性を認識して，腫瘍性疾患の診断と治療を行う能力を修得する。		同上
腎・泌尿器	頻度の高い腎・泌尿器疾患の診断ができ，適切な治療を行い．慢性疾患においては成長発達に配慮し，緊急を要する病態や難治性疾患には指導医や専門家の監督下で適切に対応する能力を修得する。	同上	同上
生殖器	専門家チーム（小児内分泌科医，小児外科医/泌尿器科　医，形成外科医，小児精神科医/心理士，婦人科医，臨床遺伝医，新生児科医などから構成されるチーム）と連携し、心理的側面に配慮しつつ治療方針を決定する能力を修得する。	同上	同上
神経・筋	主な小児神経・筋疾患について，病歴聴取，年齢に応じた神経学的診察，精神運動発達および神経学的評価，脳波，神経放射線画像などの基本的検査を実施し，診断・治療計画を立案し，また複雑・難治な病態については，指導医や専門家の指導のもと，患者・家族との良好な人間関係の構築，維持に努め，適切な診療を行う能力を修得する。	同上	同上

精神行動心身医学	小児の訴える身体症状の背景に心身医学的問題があることを認識し，出生前からの小児の発達と母子相互作用を理解し，主な小児精神疾患，心身症，精神発達の異常，親子関係の問題に対する適切な初期診断と対応を行い，必要に応じて専門家に紹介する能力を身につける.	同上	同上
救急	小児の救急疾患の特性を熟知し，バイタルサインを把握して年齢と重症度に応じた適切な救命・救急処置およびトリアージを行い，高次医療施設に転送すべきか否かとその時期を判断する能力を修得する.	同上	同上
思春期医学	思春期の子どものこころと体の特性を理解し，健康問題を抱える思春期の子どもと家族に対して，適切な判断・対　応・治療・予防措置などの支援を行うとともに，関連する診療科・機関と連携して社会的支援を行う能力を身につける.	同上	同上
地域総合小児医療	地域の一次・二次医療，健康増進，予防医療，育児支援などを総合的に担い，地域の各種社会資源・人的資源と連携し，地域全体の子どもを全人的・継続的に診て，小児の疾病の診療や成長発達，健康の支援者としての役割を果たす能力を修得する.	同上	同上

5. 専門研修の評価

専門研修を有益なものとし、到達目標達成を促すために、当プログラムでは指導医が専攻医に対してさまざまな形成的評価（アドバイス、フィードバック）を行います。研修医自身も常に自己評価を行うことが重要です（振り返りの習慣、研修手帳の記載など）。毎年2回、各専攻医の研修の進捗状況をチェックし、3年間の研修修了時には目標達成度を総括的に評価し、研修修了認定を行います。指導医は、臨床経験10年以上の経験豊富な臨床医で、適切な教育・指導法を習得するために、日本小児科学会が主催する指導医講習会もしくはオンラインセミナーで研修を受け、日本小児科学会から指導医としての認定を受けています。

1） 指導医による形成的評価

- 日々の診療において専攻医を指導し、アドバイス・フィードバックを行う。
- 毎週の教育的行事（回診、カンファレンス等）で、研修医のプレゼンなどに対してアドバイス・フィードバックを行う。
- 毎月1回の「ふりかえり」では、専攻医と指導医が1対1またはグループで集まり、研修をふりかえり、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて非公式の話し合いが持たれ、指導医からアドバイスを行う。
- 毎年2回、専攻医の診療を観察し、記録・評価して研修医にフィードバックする（Mini-CEX）。
- 毎年2回、研修手帳のチェックを受ける。

2） 専攻医による自己評価

- 日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、ふりかえりを行う。
- 毎月1回の「ふりかえり」では、指導医とともに1か月間の研修をふりかえり、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持つ。
- 毎年2回、Mini-CEXによる評価を受け、その際、自己評価も行う。
- 毎年2回、研修手帳の記載を行い、自己評価とふりかえりを行う。

3） 総括的評価

- 毎年1回、年度末に研修病院での360度評価を受ける（指導医、医療スタッフなど多職種）。
- 3年間の総合的な修了判定は研修管理委員会が行います。修了認定されると小児科専門医試験の申請を行うことができます。

6. 修了判定

1） 評価項目:(1) 小児科医として必須の知識および問題解決能力、(2) 小児科専門医としての適切なコミュニケーション能力および態度について、指導医・同僚研修医・看護師等の評価に基づき、研修管理委員会で修了判定を行います。

2） 評価基準と時期

(1)「小児科医としての必須の知識及び問題解決能力」の評価について:簡易診療能力評価 Mini-CEX (mini-clinical Evaluation Exercise)を参考にします。指導医は専攻医の診療を10分程度観察して研修手帳に記録し、その後研修医と5～10分程度振り返ります。評価項目は、病歴聴取、診察、コミュニケーション(態度)、臨床判断、プロフェッショナリズム、まとめる力・能率、総合的評価の7項目です。毎年2回(10月頃と3月頃)、3年間の専門研修期間中に合計6回行います。

(2)「小児科専門医としての適切なコミュニケーション能力および態度」の評価:360度評価を参考にします。専門研修プログラム統括責任者、連携施設の専門研修担当者、指導医、小児科看護師、同時期に研修した専攻医などが、①総合診療能力、②育児支援の姿勢、③代弁する姿勢、④学識獲得の努力、⑤プロフェッショナルとしての態度について、概略的な360度評価を行います。

(3) 総括判定:研修管理委員会が上記の Mini-CEX、360度評価を参考に、研修手帳の記載、症例サマリー、診療活動・学術活動などを総合的に評価して、修了判定します。研修修了判定がおりないと、小児科専門医試験を受験できません。

(4)「妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止」、「疾病での休止」、「短時間雇用形態での研修」、「専門研修プログラムを移動する場合」、「その他一時的にプログラムを中断する場合」に相当する場合は、その都度諸事情および研修期間等を考慮して判定を行います。

＜専門医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと＞

プログラム修了認定、小児科専門医試験の受験のためには，以下の条件が満たされなければなりません。

チェックリストとして利用してください。

1		「小児科専門医の役割」に関する目標達成(研修手帳)
2		「経験すべき症候」に関する目標達成(研修手帳)
3		「経験すべき疾患」に関する目標達成(研修手帳)
4		「習得すべき診療技能と手技」に関する目標達成(研修手帳)
5		Mini-CEX による評価(年2回、合計6回、研修手帳)
6		360度評価(年1回、合計3回)
7		30症例のサマリー(領域別指定疾患を含むこと)
8		講習会受講:医療安全、医療倫理、感染防止など
9		筆頭論文1編の執筆(小児科関連論文、査読制度のある雑誌掲載)

7. 専門研修管理委員会

7-1. 委員会の業務内容

本プログラムでは、基幹施設である順天堂大学医学部附属静岡病院小児科に、基幹施設の研修担当委員および各連携施設での責任者から構成され、専門研修プログラムを総合的に管理運営する「専門研修プログラム管理委員会」を、また連携施設には「専門研修連携施設プログラム担当者」を置いています。プログラム統括責任者は研修プログラム管理委員会を定期的に開催し、以下の（1）～（10）の役割と権限を担います。専門研修プログラム管理委員会の構成メンバーには、医師以外に、看護部、病院事務部、薬剤部、検査部などの多種職が含まれます。

＜研修プログラム管理委員会の業務＞

＜研修プログラム管理委員会の業務＞

1） 研修カリキュラムの作成・運用・評価
2） 個々の専攻医に対する研修計画の立案
3） 研修の進捗状況の把握（年度毎の評価）
4） 研修修了認定（専門医試験受験資格の判定）
5） 研修施設・環境の整備
6） 指導体制の整備（指導医 FD の推進）
7） 学会・専門医機構との連携、情報収集
8） 専攻医受け入れ人数などの決定
9） 専門研修を開始した専攻医の把握と登録
10） サイトビジットへの対応

7-2. 専攻医の就業環境

本プログラムの統括責任者と研修施設の管理者は、専攻医の勤務環境と健康に対する責任を負い、専攻医のために適切な労働環境の整備を行います。専攻医の心身の健康を配慮し、勤務時間が週 80 時間を越えないよう、また過重な勤務にならないよう、適切な休日の保証と工夫を行うよう配慮します。当直業務と夜間診療業務の区別と、それぞれに対応した適切な対価の支給を行い、当直あるいは夜間診療業務に対しての適切なバックアップ体制を整備します。研修年次毎に専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、その内容は順天堂大学静岡病院専門プログラム管理委員会に報告されます。

7-3. プログラムの継続的改善

1） 研修プログラム評価：専攻医はプログラム評価表（下記）に記載し、毎年１回（年度末）順天堂大学医学部附属静岡病院研修管理委員会に提出してください。専攻医からプログラムや指導体制等に対し、いかなる意見があっても、専攻医はそれによる不利益を被ることはありません。「指導に問題あり」と考えられる指導医に対しては、基幹施設・連携施設のプログラム担当者、あるいは研修管理委員会として対応措置を検討します。問題が大きい場合、専攻医の安全を守る必要がある場合などには、専門医機構の小児科領域研修委員会の協力を得て対応します。

（　　）年度　順天堂大学医学部附属静岡病院小児科研修プログラム評価		
専攻医氏名		
研修施設	（　　）病院	（　　）病院
研修環境・待遇		
経験症例・手技		
指導体制		
指導方法		
自由記載欄		

研修プログラム評価(3 年間の総括)

3年間の研修修了時には、当プログラム全般について研修カリキュラムの評価を記載し、専門医機構へ提出してください(小児科臨床研修手帳)。

＜研修カリキュラム評価　(3 年間の総括)＞

A 良い　　B やや良い　　C やや不十分　　D 不十分

項　目	評価	コメント
子どもの総合診療		
成育医療		
小児救急医療		
地域医療と社会資源の活用		
患者・家族との信頼関係		
プライマリ・ケアと育児支援		
健康支援と予防医療		
アドヴォカシー		
高次医療と病態研究		
国際的視野		
医の倫理		
省察と研鑽		
教育への貢献		
協働医療		
医療安全		
医療経済		
総合評価		
自由記載欄		

2)　サイトビジット:専門医機構によるサイトビジット(ピアレビュー、7−6 参照)に対しては専門医研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋げます。また、専門医機構・日本小児科学会全体としてプログラムの改善に対して責任をもって取り組みます。

7-4. 専攻医の採用と修了

1） 受け入れ専攻医数：本プログラムでの毎年の専攻医募集人数は、専攻医が3年間の十分な専門研修を行えるように配慮されています。本プログラムの指導医総数は 35 名（基幹施設 5 名、連携施設 29 名、関連施設 1 名）ですが、整備基準で定められた過去3年間の小児科専門医の育成実績から 2 名を受け入れ人数とします。

2） 採用：順天堂大学医学部附属静岡病院小児科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラムを順天堂大学静岡病院小児科のホームページに公表し、一次審査終了後、説明会を実施し応募者を募集します。本研修プログラムへの応募者は、応募開始となりましたらプログラム統括責任者宛てに所定の「応募申請書」および履歴書当定められた書類を提出してください。申請書は順天堂大学医学部附属静岡病院小児科のホームページからダウンロードするか、お電話で問い合わせください（TEL：055-948-3111）。なお書類を郵送された際はその旨をメールにてお知らせ頂けますと幸いです。書類選考および面接を行い、専門研修プログラム管理委員会で審査の上、採否を決定します。採否は文書で本人に通知します。なお、定員に空きがある場合は、二次募集および三次募集も行う予定です（詳細は後日公表）。

3） 研修開始届け：研修を開始した専攻医は、指定の期日までに以下の専攻医報告書を、順天堂大学医学部附属静岡病院小児科専門研修プログラム管理委員会（shizuoka-kenshu@juntendo.ac.jp）に提出してください。専攻医報告書：医籍登録番号、初期研修修了証、専攻医の研修開始年度、専攻医履歴書をご提出頂きます。

4） 修了（6修了判定参照）：毎年1回、研修管理委員会で各専攻医の研修の進捗状況、能力の修得状況を評価し、専門研修3年修了時に、小児科専門医の到達目標にしたがって達成度の総括的評価を行い、修了判定を行います。修了判定は、専門研修プログラム管理委員会の評価に基づき、プログラム統括責任者が行います。「妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止」、「疾病での休止」、「短時間雇用形態での研修」、「専門研修プログラムを移動する場合」、「その他一時的にプログラムを中断する場合」に相当する場合は、その都度諸事情および研修期間等を考慮して判定します。

7-5. 研修中断、プログラム変更等の条件

1） 研修の休止・中断期間を除いて3年以上の専門研修を行わなければなりません。勤務形態は問いませんが、専門医研修であることを統括責任者が認めることが絶対条件です（大学院や留学などで常勤医としての勤務形態がない期間は専門研修期間としてはカウントされません）。

2） 出産育児による研修の休止に関しては、研修休止が6か月までであれば、休止期間以外での規定の症例経験がなされ、診療能力が目標に到達しているとプログラム管理委員会が判断すれば、3年間での専攻医研修修了を認めます。

3）病気療養による研修休止の場合は、研修休止が3か月までであれば、休止期間以外で規定の症例経験がなされ、診療能力が目標に到達しているとプログラム管理委員会が判断すれば、3年間での専攻医研修修了を認めます。

4）諸事情により専門医研修プログラムを中断し、プログラムを移動せざるをえない場合には、日本専門医機構内に組織されている小児科領域研修委員会へ報告、相談し、承認された場合には、プログラム統括責任者同士で話し合いを行い、専攻医のプログラム移動を行います。

7-6. サイトビジットへの対応

研修プログラムに対する外部からの監査・調査に基幹施設および連携施設の責任者は真摯に対応します。日本専門医機構からのサイトビジットにあたっては、求められた研修関連の資料等を提出し、また、専攻医、指導医、施設関係者へのインタビューに応じ、サイトビジットによりプログラムの改善指導を受けた場合には、専門研修プログラム管理委員会が必要な改善を行います。

8. 専門研修実績記録システムと研修手帳、マニュアル

専門研修実績記録システム（様式）研修マニュアル、指導医マニュアルは別途定めます。

【研修マニュアル目次】

序文（研修医・指導医に向けて）

- ようそこそ小児科へ
- 小児科専門医概要
- 研修開始登録（プログラムへの登録）
- 小児科医の到達目標の活用（小児科医の到達目標 改定第6版）
- 研修手帳の活用と研修中の評価（研修手帳　　改定第3版）
- 小児科医のための医療教育の基本について
- 小児科専門医試験告示、出願関係書類一式、症例の要約の提出について第11回（2017年）以降の専門医試験について
- 専門医新制度について
- 参考資料

  小児科専門医制度に関する規則、施行細則専門医にゅーす　　No. 8, No. 13
- 当院における研修プログラムの概要（モデルプログラム）

9. 指導医体制

指導医は、専門医資格を1回以上更新して診療実績を積んでいる臨床経験10年以上（小児科専門医として5年以上）の経験豊富な小児科専門医で、適切な教育・指導法を習得するために、日本小児科学会が主催する指導医講習会もしくはオンラインセミナーで研修を受け、日本小児科学会から指導医としての認定を受けています。

10. サブスペシャルティ領域との連続性と支援

現在、小児科に特化した サブスペシャルティ領域としては、アレルギー専門医（日本アレルギー学会）新生児専門医（日本周産期新生児医学会）の領域があります。本プログラムでは、基本領域の専門医資格取得からサブスペシャルティ領域の専門研修へと連続的な研修が可能となるように配慮します。サブスペシャルティ領域の専門医資格取得の希望がある場合、3年間の専門研修プログラムの変更はできませんが、可能な範囲で専攻医が希望するサブスペシャルティ領域の疾患を経験できるよう当該サブスペシャルティ領域の指導医と相談しながら研修計画を立案します。ただし、基本領域専門研修中に経験した疾患サブスペシャルティ領域の専門医資格申請に使用できない場合があります。

順天堂大学医学部附属静岡病院小児科および連携する順天堂大学附属病院群には各サブスペシャルティ領域の専門医や指導医が多数在籍しており、多くの分野の教育施設に認定されているため、小児科専門医取得後、将来的にサブスペシャルティ領域の専門医資格申請への橋渡しがスムーズに行えます。

【静岡病院】

(1) 日本てんかん学会教育認定施設
(2) 日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設
(3) 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設

【順天堂医院】

(1) 日本てんかん学会教育認定施設
(2) 日本小児循環器専門医修練施設
(3) 小児血液がん専門医研修施設
(4) 日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設
(5) 日本感染症学会認定教育施設
(6) 日本アレルギー専門医教育研修施設
(7) 日本消化管学会胃腸科指導施設
(8) 日本病態栄養学会病態栄養専門医認定教育施設
(9) 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医（小児科）認定教育施設

小児科専門医新規登録

カリキュラム制（単位制）による研修開始の理由書

日本小児科学会 気付 日本専門医機構 御中

小児科研修プログラムで研修することが不可能であるため、カリキュラム制（単位制）で小児科専門医の研修を開始したく、理由書を提出します

記入日（西暦）　　年　月　日

●申請者氏名 （署名）

●勤務先

施 設 名　:

科・部名:

〒 : TEL:

●プログラム制での研修ができない理由 ※理由を証明する書類を添付すること

□1）義務年限を有する医科大学卒業生、地域医療従事者（地域枠医師等）

□2）出産、育児、介護、療養等のライフイベント

□3）海外・国内留学

□4）他科基本領域の専門医を取得

□5）その他上記に該当しない場合

●理由詳細

●他科基本領域専門研修プログラムでの研修歴について

他科基本領域専門研修プログラムに登録したことがある（はい・いいえ）はいの

場合、基本領域名（　　科）

研修状況（中途辞退 ・ 中断 ・ 修了）

－－

主たる研修施設

上記の者が小児科カリキュラム制（単位制）での研修を開始することを承諾いたします

基幹施設名／連携施設名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

プログラム統括責任者（署名） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞

プログラム統括責任者の小児科専門医

第1版2026年４月１日

順天堂大学医学部附属静岡病院　臨床研修センター（総務課）
小児科専門研修プログラム管理委員会

〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡 1129 番地
Tel:055-948-3111（代表） Fax:055-948-5088
E-mail:shizuoka-kenshu@juntendo.ac.jp